

Café 1894 展覧会タイアップメニュー

三菱一号館美術館に併設するミュージアムカフェ・バー「Café 1894」では、期間限定で展覧会にちなんだメニューをご用意しています。

Lunch ランチ販売時間：11時～14時（L.O.）



Délices de la mode デリス ドゥ ラ モード

前菜 エビと季節野菜のテリース風
メイン 鴨肉のロティ 赤い果実のソース
+パンとコーヒー or 紅茶

2,800 円（税込）

Dessert デザート販売時間：14時半～16時半（L.O.）



レッドベルベットケーキと赤い果実

フロマージュクリームを挟んだレッドベルベットケーキにカシスのシャーベットをトッピング

1,550 円（税込）

Dinner ディナー販売時間：17時～22時（L.O.） 1920年代パリの豪華な社交界をイメージした前菜、メインとデザートを取り揃えました。



前菜 1,600 円（税込）
ビスクムースと海老、ピーツの
カクテルフレンチキャビア添え



メイン 4,500 円（税込）
黒毛和牛ステーキとフォアグラのボワレ



デザート 2,000 円（税込）
フルーツドレス —Parfait de robes

アール・デコとモード 京都服飾文化研究財団（KCI）コレクションを中心に
Art Deco and Fashion: Centering on The Kyoto Costume Institute Collection

会 期 2025.10.11(土)～2026.1.25(日)

開館時間 10:00～18:00 1/2を除く金曜日、第2水曜日と会期最終週平日は20:00まで入館は閉館時間の30分前まで

休 館 日 祝日・振替休日を除く月曜日、および12/31と1/1
トークフリーデーの10/27、11/24と12/29、会期最終週の1/19は開館

観 覧 料 当日券 一般：2,300 円 大学・専門学校生：1,300 円
高校生：1,000 円 中学生以下：無料

毎月第2水曜日17時以降「マジックアワーチケット」：1,600 円
当日の17時以降に当館チケット窓口でのみ販売します。

※価格はすべて税込み ※障害者手帳をお持ちの方は半額、付添の方は1名まで無料（ただし入館期間12/4～12/10は障害者手帳をお持ちの方と同伴者1名様まで無料となります）
※各種割引利用の場合、他の割引との併用不可

キラキラコーデ割
会期中キラッと光るファッションアイテムを着用してご来館いただいた方は、当日料金が100円引きになります。
※チケット窓口でお申し出ください



ACCESS
・JR「東京」駅（丸の内南口）徒歩5分・JR「有楽町」駅（国際フォーラム口）徒歩6分・東京メトロ千代田線「二重橋前（丸の内）」駅（1番出口）徒歩3分・東京メトロ有楽町線「有楽町」駅（D3/D5出口）徒歩6分
・都営三田線「日比谷」駅（B7出口）徒歩3分・東京メトロ丸の内線「東京」駅（地下道直結）徒歩6分
〒100-0005 東京都千代田区丸の内 2-6-2 お問い合わせ：050-5541-8600（ハローダイヤル）



三菱一号館美術館
MITSUBISHI ICHIGOKAN MUSEUM, TOKYO

主催：三菱一号館美術館、公益財団法人 京都服飾文化研究財団
特別協力：株式会社ワコール 後援：在日フランス大使館 / アンスティチュ・フランセ
協賛：DNP大日本印刷 協力：日本航空、株式会社 七彩
美術館 WEB サイト <https://mimt.jp/> 展覧会 WEB サイト <https://mimt.jp/ex/artdeco2025/>

人を、想う力。街を、想う力。三菱地所

アール・デコ
と
モード

京都服飾文化研究財団
（KCI）
コレクションを中心に

Art Deco and Fashion:
Centering on
The Kyoto Costume
Institute Collection

2025 10/11 — 2026 1/25 三菱一号館美術館



1920年代を中心に世界を席卷した装飾様式「アール・デコ」。生活デザイン全般におよんだその様式は、「モード」すなわち流行の服飾にも現れました。ポワレやランバン、シャネルなどパリ屈指のメゾンが生み出すドレスには、アール・デコ特有の幾何学的で直線的なデザインや細やかな装飾が散りばめられています。それは古い慣習から解放され、活動的で自由な女性たちが好む新しく現代的なスタイルでした。2025年は、パリで開催され、「モード」が中心的な主題のひとつであった装飾芸術の博覧会、通称アール・デコ博覧会から100年目にあたります。この記念の年に、世界的な服飾コレクションを誇る京都服飾文化研究財団(KCI)が収集してきたアール・デコ期の服飾作品と資料類約200点に、国内外の美術館・博物館や個人所蔵の絵画、版画、工芸品などを加えた合計約310点により、現代にも影響を与え続ける100年前の「モード」を紐解きます。

The decorative style known as Art Deco swept the world in the 1920s. While touching all aspects of lifestyle design, it also became a fashion mode. Dresses produced by the leading Parisian houses of couture such as Paul Poiret, Chanel, and Lanvin featured Art Deco’s characteristic geometric linear designs and decorative detailing. It was a fresh, modern look favored by active, free-spirited women intent on breaking with convention. The year 2025 marks the centenary of the *Exposition internationale des arts décoratifs et industriels modernes*, the Paris event that ultimately lent its name to the style. The present exhibition features 310 items, including 200 garments, accessories, and documents of the Art Deco period from The Kyoto Costume Institute’s world-class collection along with paintings, prints, and crafts from museums and private collectors in Japan and abroad. Visitors can immerse themselves in a century-old “mode” that continues to exert a powerful influence today.



幅広い層から支持を得たランバンの優雅なドレス



多くのクチュリエに採用された画家ラウル・デュフィのデザインによるテキスタイル



レジャー人気の高まりとともに洗練されていったリゾート着



レジャー人気の高まりとともに洗練されていったリゾート着

みどころ
1 ポワレ、ランバン、シャネル、パトゥなどパリ屈指のメゾンが生み出す1920年代のドレスを多数展観

みどころ
2 世界有数のファッションアーカイブスである京都服飾文化研究財団(KCI)から、アール・デコ期の選りすぐりのドレス約60点と服飾小物(帽子、バッグ、靴など)を一挙公開

みどころ
3 アール・デコ博覧会から100年を記念し、当時の服飾の流行を、絵画、工芸、グラフィック作品などとともに総合的に検証

みどころ
4 100年前の活動的な女性を彩ったジュエリー、腕時計、化粧道具(コンパクト)など、現代につながる様々なアイテムが集結

- 1. ジャンヌ・ランバン イヴニング・ドレス 1920年代前半 撮影：畠山崇
- 2. ツイママン デイ・ドレス (テキスタイルデザイン：ラウル・デュフィ) 1922年頃 撮影：畠山崇
- 3. ポール・ポワレ デイ・ドレス (テキスタイルデザイン：ラウル・デュフィ) 1922年頃 撮影：林雅之
- 4. ジャン・パトゥ ビーチウェア 1929年頃 撮影：畠山崇

- 5. ドゥイエ イヴニング・ドレス 1925年頃 撮影：畠山崇
- 6. シャネル デイ・アンサンブル 1928年頃 撮影：広川泰士
- 7. シャネル イヴニング・ドレス 1928年 撮影：畠山崇
- 8. マドレーヌ・ヴィオネ イヴニング・ドレス 1929年 撮影：畠山崇 すべて京都服飾文化研究財団



曲線的なアール・ヌーヴォー期のシルエットから一変



時代の変化に敏感だったシャネルの服は、活動的な新しい女性のワードローブに



服の新しい構成や作り方を開拓したヴィオネ



アール・デコ博覧会の役割と最新モード

当時のフランスでは高級産業品の輸出が拡大し、なかでも服飾品の輸出が急増していました。こうした社会状況を背景に、1925年にパリで開催された通称アール・デコ博覧会では、服飾が芸術性の高い産業のひとつに位置づけられ、全体で5つのグループに分けられた展示のうちのひとつが「服飾」に充てられました。そこでは、衣服や宝飾品、香水、帽子や靴など、パリ屈指のクチュリエ、宝飾メーカー、香水メーカーらによる最新の品々が展示され、会場となったグラン・パレやエレガンス館、ブティック通り、そしてポール・ポワレ(1879-1944)の川船を使用した展示は、各国のメディアの耳目を集めることになりました。

ロベール・ボンフィス ポスター「現代産業装飾芸術国際博覧会」1925年 京都工芸繊維大学美術工芸資料館



靴を眺める際のヒールのサンプル
ラインストーンや手彩色による細密で精巧な装飾が足元に



日本の漆芸を学んだ工芸家ジャン・デュナンは漆を金属に塗布するなど、斬新なアイデアで服飾小物を多数制作

- 9. ヒール 1925年頃 京都服飾文化研究財団 撮影：広川泰士
- 10. ジャン・デュナン パックル [中右] コンパクト [上][中左][下] 1925年頃 京都服飾文化研究財団 撮影：畠山崇

- 14. ルネ・ラリック アトマイザー「サン・アデュー(さよならは言わない)」ウォルト社 1929年 箱根ラリック美術館
- 15. カルティエ製のフルーツサラダ・リング 1930年 国立西洋美術館(橋本コレクション) 撮影：上野剛宏
- 16. 時計付きライター ダンヒル社 1920年代 個人蔵 撮影：若林勇人
- 17. ルースパウダー入りコンパクト(二種) 1920年代 初頭カネボウ化粧品(アンティークコンパクトコレクション) 撮影：若林勇人
- 18. ルースパウダー入りコンパクト 1920年代後半 カネボウ化粧品(アンティークコンパクトコレクション) 撮影：若林勇人
- 19. ルースパウダー入りコンパクト 1922-1925年カネボウ化粧品(アンティークコンパクトコレクション) 撮影：若林勇人



11 ジャクリヌ・マルヴァル 《ヴァーツラフ・ニジンスキーとタマラ・カルサヴィナ》1910年頃 個人蔵/ジャクリヌ・マルヴァル委員会(パリ) 協力



12 モイーズ・キスリング 《ファルコネット嬢》1927年 ボーラ美術館



13 ラウル・デュフィ 《ポワレの服を着たモデルたち、1923年の競馬場》1943年 石橋財団アーティゾン美術館